

常葉大学
第 11 回多言語レシテーション大会
パンフレット 目次

- 次第 (p.1)
あいさつ (p.3)
出場者一覧 (p.5)
課題文 (p.7)
1. 韓国語
2. スペイン語
3. 中国語
4. ポルトガル語
歴年の課題文 (p.20)

第 11 回常葉大学多言語レシテーション大会
次 第

2024 年 12 月 14 日(土) 13:00-16:40

常葉大学静岡草薙キャンパス A 棟 2 階 A201 教室

1. 開会式 13:00～13:05

あいさつ 外国語学部長 増井実子

2. レシテーション 13:05～14:05

ソロ部門：韓国語、スペイン語、中国語、ポルトガル語 13:05～14:05

(休憩 20 分)

ペア部門：韓国語、スペイン語、中国語、ポルトガル語 14:25～15:25

3. 閉会式 15:25～15:30

あいさつ 外国語学部グローバルコミュニケーション学科長 谷誠司

(休憩 20 分)

4. 交流会 15:50～16:40

* 諸般の事情により、進行に変更が生じることもございます。予めご了承下さい。

結果発表：大学ホームページやポータルサイト等で後日配信

表彰式：1 月 15 日（水）昼休み 12：30～13：00 （於：A404 教室）（高校生受賞者には別途連絡）

関係者一覧

審査員

韓国語：崔慶原（常葉大学教員）、柳采延（常葉大学教員）

スペイン語：岩崎ラファエリーナ（常葉大学非常勤講師）、三村友美（常葉大学教員）

中国語：盧思（画家・京劇俳優）、戸田裕司（常葉大学教員）

ポルトガル語：ホザンジェラ岩瀬（常葉大学非常勤講師）、江口佳子（常葉大学教員）

学生実行委員

[実行委員長] 佐口健心

[実行委員] 中村真大、谷津亜門、鈴木来奈、清水美緒、一圓天舞、佐野嵩真

[ビデオ撮影及び編集] 木村菜々美

[ボランティア] (3年) 松田千潤

(2年) 見機羅良

(1年) 磯部遥菜、大畑育海、木下可南子、福田りお

(以上、本学外国語学部グローバルコミュニケーション学科生)

教職員

江口佳子(統括・学生補助)、市川真矢・崔慶原(編集)、三村友美(会計)、谷誠司(編集・審査)、増井実子(高校)

大会公式サイト https://www.tokoha-u.ac.jp/language/recitation_contest/



あいさつ

四言語で描く多彩な世界

常葉大学外国語学部長

増井実子

この度は多言語レシテーション大会にご出場いただき、誠にありがとうございます。本大会は、グローバルコミュニケーション学科で学べる韓国語、中国語、ポルトガル語、スペイン語という四つの言語の課題文（詩や文学作品）の暗唱を通じて、その言語の魅力を深く感じていただく機会になっています。今年も、大学生と高校生が一堂に会し、ソロ部門とペア部門で競い合います。それぞれの言語の響きやリズム、そしてその背後にある文化を感じ取っていただけることと思います。魅力的な課題文が揃っておりますので、皆さんの暗唱がこれらの作品に新たな命を吹き込むことを楽しみにしています。

私は、常々「美しい暗唱は美しい音楽のようだ」と感じています。たとえば私はスペイン語教員ですので、スペイン語部門の詩の内容は理解できますが、韓国語はわかりません。それでも、韓国語部門の出場者の声や演技力を通じて、その表現が上手いのかそれともそうではないのかをなぜか感じ取れてしまうのです。言葉の内容はわからなくても、感情や表現の深さが伝わってくる瞬間は、まさに言語の枠を超えたものだと思います。今日はぜひ、皆さん一人ひとりが表現者として、言葉を通じて自分の世界を存分に表現してください。

また、この大会に向けて懸命に練習を重ねてきた全ての出場者に、心からの敬意を表します。ソロ部門は自分の力で言葉の美しさを表現する孤高の場ですし、ペア部門は二人の相乗効果により詩の世界を広げる場となるでしょう。皆さんがこの場に立つために費やした時間と努力は、言語学習として成果を生むと信じています。

最後に、大会の成功にご尽力いただいた関係者の皆様にも、深く感謝申し上げます。本大会が、出場者一人ひとりにとって有意義な経験となり、さらなる学びと挑戦の原動力となることを心から願っております。

言葉の力を感じるひとときに

常葉大学外国語学部グローバルコミュニケーション学科長

谷 誠司

本年度も「多言語レシテーション大会」を開催できることを大変嬉しく思っております。

この大会は単なる詩歌の暗唱・朗読にとどまらず、各言語が持つ歴史的背景や文化的な深みを参加者全員が共に感じ取り、体験する場であります。かつて本学の学長であった西頭徳三先生の言葉*を借りると、朗唱は単なる言葉の再現を超え、その言葉が生まれた「時空」を追体験することに他なりません。西頭先生が北陸で体験された万葉朗唱の会は、まさにその「時空」を実感する貴重な機会であり、この大会もまた詩歌の持つ力を再確認し、言葉の奥深さを感じ取る場でありたいと考えております。

日本語とドイツ語で作品を手がける作家、多和田葉子氏は『エクソフォニー：母語の外に出る旅』**でこう書いています。「母語の外に出てみたのも、複数文化が重なりあった世界を求め続けるのも、その中で、個々の言語が解体し、意味から解放され、消滅するそのぎりぎり手前の状態に行きつきたいと望んでいるからなのかもしれない。」「外国語を学ぶということは、新しい自分を作ること、他の自分を発見することでもある。（中略）日本語でものを書いている限り、タブーに触れないようにする機能が自動的に働いてしまう。それが、他の言語を使っていると、タブー排斥機能が働かなくなって、普段は考えてもみなかったはずのことを大胆に表現してしまったり、忘れていた幼年時代の記憶が急に蘇ってきたりもする。」

母語の枠を超えて、多様な言葉が飛び交う場を共にすることで、言葉の力を再認識し、皆様にとって貴重なひとときとなることを心より願っております。どうぞ素晴らしい時間をお過ごしください。

*西頭徳三（2016）『私の朗唱体験』常葉大学多言語レシテーション2016年度（第3回大会）巻頭言

**多和田葉子（2012）『エクソフォニー：母語の外へ出る旅』岩波現代文庫

出場者一覧

() 内は学年

() 直後の英数字は、二言語出場者のもう一つの出場言語の英文頭文字

	1. ソロ部門	2. ペア部門
韓国語 Korean ソロ部門 (7名) ペア部門 (5組)	K1-1 岡本タロウ (1)C K1-2 二羽杏実 (1) K1-3 遠藤百恵 (吉原高 1) K1-4 鎌倉利佳 (2) K1-5 瀧花唯瑠 (2) K1-6 加藤もか (静岡県立城北高 2)C K1-7 山本花瑠 (静岡県立城北高 2)C	K2-1 「짱즈」 義村日和 (1) 畠中里佳 (1) K2-2 「부석」 福田りお (1) 磯部遥菜 (1) K2-3 「슈퍼행복팀」 鈴木李香(1) 三俣花 (1) K2-4 「へばらぎ」 登崎心晴 (静岡県立城北高 1) 望月瑠花 (静岡県立城北高 1) K2-5 「JET」 末田すずな (吉原高 1) 遠藤礼菜 (吉原高 1)

スペイン語 Spanish ソロ部門 (2名) ペア部門 (1組)	S1-1 依田彩花 (2) S1-2 服部未由羅 (3)	S2-1 「Las Fresitas」 大木萌々華 (3) 望月来瞳 (3)
--	---------------------------------	--

	1.ソロ部門	2.ペア部門
中国語 Chinese ソロ部門 (7名) ペア部門 (3組)	C1-1 佐藤光紗 (静岡城北高2) C1-2 宮部恵麻 (静岡城北高2) C1-3 加藤もか (静岡城北高2)K C1-4 山本花瑠 (静岡城北高2)K C1-5 吉村莉乃彩 (静岡城北高2) C1-6 岡本タロウ (1)K C1-7 落合優音 (3)	C2-1 「中国いっちゃんいな」 森下真千子 (2) 市原万奈 (2) C2-2 「Ling Xiao」 杉岡凌太 (静岡城北高3) 濱松心咲 (静岡城北高3) C2-3 「黄河」 佐藤里佳 (吉原高2) 唐井麻琴 (吉原高2)

ポルトガル語 Portuguese ソロ部門 (5名) ペア部門 (3組)	P1-1 杉山春樹 (3) P1-2 川口哲平 (1) P1-3 赤堀歩乃佳 (1) P1-4 佐野涼太 (1) P1-5 山村サラ (1)	P2-1 「melão inteiro」 渡邊望 (1) 依田麻唯 (1) P2-2 「ゆきみだいふく」 榎下友菜 (2) 植田晴名 (2) P2-3 「Sabiá laranjeira」 浅沼芳華 (4) 小井麻央 (4)
--	--	--

ソロ部門のべ21名、ペア部門12組(24名)、合計42名(うち2言語出場者3名)

2024年度 レシテーション大会 韓国語 課題文

ソロ部門

별은 너에게로

星はあなたへ

박 노해

パク・ノヘ

어두운 길을 걷다가
빛나는 별 하나 없다고
절망하지 말아라

暗い道を歩いて
輝く星一つないと
絶望するな

가장 빛나는 별은 아직
도달하지 않았다

一番輝く星はまだ
到達していない

구름 때문이 아니다
불운 때문이 아니다

雲のせいではない
不運のせいではない

지금까지 네가 본 별들은
수억 광년 전에 출발한 빛

今まであなたが見た星たちは
数億光年前に出発した光

길 없는 어둠을 걷다가
별의 지도마저 없다고
주저앉지 말아라

道なき闇を歩いて
星の地図さえないと
へこたれるな

가장 빛나는 별은 지금
간절하게 길을 찾는 너에게로
빛의 속도로 달려오고 있으니

一番輝く星は 今
切実に道を探すあなたに
光のスピードで駆けつけて来ているから

(訳：崔 慶原)

パク・ノヘ (朴勞解)

詩人、労働運動家。1957年、韓国全羅南道生まれ。27歳の時、現場労働者として詩集を出版。平和運動家としても知られている。

この「星はあなたへ」という詩は、人生という道に対して不安と恐れを抱きながら歩んでいる人々への励ましのメッセージです。暗い道に輝く星がなくても、絶望しないで歩めるのは、自分の探す光がもうすぐやって来るという期待があるからです。時になれば、光が訪れてくれるので、へこたれたり、諦めたりしないで、もう少し歩いて行こう、と優しく促してくれます。現実の難しさに挫けることなく、希望をしっかりと持って歩んで行くつもりで朗読してみてください。

2024 年度 レシテーション大会 韓国語 課題文

ペア部門

그늘 만들기

日陰づくり

홍 수희

洪・スヒ

8 월의 땡볕
아래에 서면
내가 가진 그늘이
너무 작았네

8月の照りつける日差し
その下に立つと
私が持つ日陰が
とても小さかったね。

손바닥 하나로
하늘 가리고
애써 이글대는
태양을 보면
홀로 선 내 그림자
너무 작았네

手のひら一つで
空を塞いで
なんとか赤々と燃える
太陽を見たら
一人で立つ私の影
とても小さかったね。

벗이여,
이리 오세요
홀로 선 채
이 세상 슬픔이
지워지나요

友よ
こちらに来てください。
一人立ったままで
この世の悲しみが
消えますか

나뭇잎과 나뭇잎이
손잡고 한여름
감미로운 그늘을
만들어 가듯
우리도 손잡지를
끼워 봅시다

木の葉と木の葉が
手を握って 真夏日に
甘い陰を
つくるように
私たちも指を絡めて
手をつないでみましょう。

네 근심이
나의 근심이 되고
네 기쁨이
나의 기쁨이 될 때

あなたの心配が
私の心配となり
あなたの喜びが
私の喜びになるとき

벗이여,
우리도 서로의
그늘 아래 쉬어 갑시다

友よ
私たちも互いの
陰の下で休んでいきましょう。

洪・スヒ

詩人。1995年に文芸集『韓国詩』で新人賞を受賞し、登壇。

この「日陰づくり」という詩は、人生と一緒に歩む友の存在について考えさせてくれる作品です。強い日差しが照りつける真夏日に友と一緒に陰をつくるという場面で、悲しみや喜びを分かち合う友の存在がクローズアップされています。大切な友を思い出しながら、あるいは、誰かの真実な友になるとはどういうことかについて考えながら、朗読してみてください。

“20 poemas de amor y una canción
desesperada”

Pablo Neruda

Me gustas cuando callas porque estás como
ausente,
y me oyes desde lejos, y mi voz no te toca.
Parece que los ojos se te hubieran volado
y parece que un beso te cerrara la boca.

Me gustas cuando callas porque estás como
ausente.
Distante y dolorosa como si hubieras muerto.
Una palabra entonces, una sonrisa bastan.
Y estoy alegre, alegre de que no sea cierto.

『二十の愛の詩と一つの絶望の歌』

パブロ・ネルーダ

黙っているときのおまえが好きだ うつろな
ようすで
遠くで おれに耳を傾けているのに おれの
声はおまえに届かない
おまえの目はどこかに飛び去ってしまったか
のようだ
一度のくちづけが おまえの口を閉じさせて
しまうかのようだ

黙っているときのおまえが好きだ うつろな
ようすで
息絶えたかのように かなたにいて いたい
たくて
そんなときは ひとつのことばと微笑みだけ
でいい
すると おれは楽しくなる 楽しくなくても
楽しくなる

【作品の解説】

南米チリの詩人で外交官、政治家でもあった、パブロ・ネルーダ(Pablo Neruda : 1904-1973)の若き日の代表作『二十の愛の詩と一つの絶望の歌』、その中でも、ネルーダ本人に朗読のリクエストが多かった、とされている『愛の詩 15 番』よりテキストを抜粋、今回の課題文といたしました。

※参考文献：『ネルーダ詩集』ネルーダ・パブロ(著)・田村さと子(訳・編) 思潮社 2004

スペイン語ペア部門 課題文

AとBに分かれて暗唱をしてください。

“LA MURALLA” Nicolás Guillén

A : Para hacer esta muralla,
traíganme todas las manos:
Los negros, sus manos negras,
los blancos, sus blancas manos.

B : Ay, una muralla que vaya
desde la playa hasta el monte,
desde el monte hasta la playa,
bien, allá sobre el horizonte.

A: —¡Tun, tun!

B: —¿Quién es?

A: —Una rosa y un clavel...

B: —¡Abre la muralla!

A: —¡Tun, tun!

B: —¿Quién es?

A: —El sable del coronel...

B: —¡Cierra la muralla!

A: —¡Tun, tun!

B: —¿Quién es?

A: —La paloma y el laurel...

B: —¡Abre la muralla!

A: —¡Tun, tun!

B: —¿Quién es?

A: —El alacrán y el ciempiés...

B: —¡Cierra la muralla!

A: Al corazón del amigo,

B: abre la muralla;

A: al veneno y al puñal,

B: cierra la muralla;

A: al mirto y la yerbabuena,

B: abre la muralla;

B: al diente de la serpiente,

A: cierra la muralla;

B: al ruiseñor en la flor,

A: abre la muralla...

「城壁」 ニコラス・ギジェン

A この城壁を作るために
みんなの手を持ってきてください
黒い人たちの黒い手を
白い人たちの白い手を

B ああ、海岸から山まで
山から海岸まで
地平線の向こうまで続く城壁を

A — トントン！

B — 誰なの？

A — バラとカーネーション...

B — 城壁を開けて！

A — トントン！

B — 誰なの？

A — 大佐の剣...

B — 城壁を閉じて！

A — トントン！

B — 誰なの？

A — ハトと月桂樹...

B — 城壁を開けて！

A — トントン！

B — 誰なの？

A — サソリとムカデ...

B — 城壁を閉じて！

A 友達の心には

B 城壁を開けて

A 毒と刃には

B 城壁を閉じて

A ミルトとハッカには

B 城壁を開けて

B 蛇の歯には

A 城壁を閉じて

B 花の中のナイチンゲールには

A 城壁を開けて...

B: Alcemos una muralla
juntando todas las manos;
los negros, sus manos negras,
los blancos, sus blancas manos.
A: Una muralla que vaya
desde la playa hasta el monte,
desde el monte hasta la playa,
bien, allá sobre el horizonte...

B すべての手を合わせて
城壁を築こう
黒い人たちの黒い手を
白い人たちの白い手を
A 海岸から山まで
山から海岸まで
地平線の向こうまで続く城壁を

【作品の解説】

ニコラス・ギジエン (Nicolás Guillén 1902-1989)はキューバを代表する詩人で、特にアフリカ系キューバ人の文化や伝統を取り入れる作風で知られています。深い社会的・政治的なテーマをアフリカのリズムとスペイン語の詩の伝統で表現する彼の作品は、声に出して読むとその魅力が増すとされています。

「La Muralla」(城壁)において、ギジエンは人種や民族、社会的地位に関係なく、人々が団結することの重要性を表現しています。善と平和を受け入れ、悪と暴力を拒むことができる「城壁」という比喻を通じて、読み手に平和、平等、連帯のメッセージを広めようとしているといえるでしょう。「トントン!」「誰なの?」という繰り返しの部分は、ペアの掛け合いでテンポよく演じられるよう、二人で十分に練習をしてください。

また、「La Muralla」はスペインの国民的な歌手アナ・ベレン (Ana Belén) の持ち歌としても有名です。Youtube で動画を見ることができますので、練習の際に視聴して詩のイメージを広げてみましょう。

Youtube : <https://www.youtube.com/watch?v=CID9Mj2zyZY>

●2024 年度 中国語課題文（ソロ部門）

《故乡》结尾 鲁迅 《Gùxiāng》 Jiéwěi LǚXùn

我想：希望本是无所谓有， 无所谓无的。 这正如地上的路； 其实地上本没有路， 走的人多了， 也便成了路。	Wǒ xiǎng : Xīwàng běnshì wúsuǒwèi yǒu, wúsuǒwèi wúde。 Zhè zhèngrú dìshangde lù; Qíshí dìshang běnméiyǒu lù, zǒude rén duōle, yě biànchéngle lù。	思うに希望とは、もともとあるものともいえぬし、 ないものともいえない。 それは地上の道の様なものである。 もともと地上に道はない。 歩く人が多くなれば、 それが道になるのだ。
---	--	--

(竹内好訳『阿Q正伝・狂人日記』岩波文庫、1955年)

[解説]

鲁迅(1881～1936)の小説『故郷』の最後の一段である。鲁迅は中国近代文学を代表する作家であり、この『故郷』の他にも、『阿Q正伝』、『藤野先生』など日本人に親しまれている作品も多い。高村光太郎の詩「道程」の一節——「僕の前に道はない 僕の後ろに道は出来る」と混同されがちだが、「道」に込められた想いはかなり異なるものである。是非、作品全体にも興味をもって欲しい。近年、竹内好の訳文には不正確との批判もあるが、文法的正確さを重んじた訳はツマラナイので、あえて竹内訳をあげた。

● 2024 年度 中国語課題文（ペア部門）

※指示 一人が黒文字部分をもう一人が青文字部分を朗読してください。

余光中《乡愁》 Yú Guāngzhōng 《Xiāngchóu》

小时候,	Xiǎoshíhou,	おさない頃、
乡愁是一枚小小的邮票,	xiāngchóu shì yìméi xiǎoxiaode yóupiào,	郷愁とはちっぽけな切手。
我在这头, 母亲在那头。	wǒ zài zhètou, mǔqīng zài nàtou。	私はこっち、お母さんはあっち。
长大后,	Zhǎngdàhou,	大きくなったら、
乡愁是一张窄窄的船票,	xiāngchóu shì yìzhāng zhǎizhaide chuánpiào,	郷愁とはちっぽけな乗船券。
我在这头, 新娘在那头。	wǒ zài zhètou, xīnniáng zài nàtou。	私はこっち、花嫁はあっち。
后来啊,	Hòulai a,	その後は…、
乡愁是一方矮矮的坟墓,	xiāngchóu shì yìfāng ǎi'aide fénmù,	郷愁とはちっぽけなお墓。

我在外头，母亲在里头。 wǒ zài wàitou, mǔqin zài lǐtou。 私は外、お母さんは中。
而现在， Ér xiànzài, そうして今、
乡愁是一湾浅浅的海峡， xiāngchóu shì yìwān jiǎnjiānde hǎixiá, 郷愁とは浅い海峡。
我在这头，大陆在那头。 wǒ zài zhètou, dàlù zài nàtou。 私はこっち。大陸はあっち。

(訳文：戸田裕司)

【解説】 余光中(1928-2017)は、台湾・中国、そして世界の華人社会でも著名な詩人・作家・翻訳者。「右手で詩を書き、左手で文章を書く」と呼ばれた多才な文化人である。台湾・アメリカ・香港の幾つもの大学で教鞭を執った学者でもある。

彼は国共内戦の中、22歳で中国から台湾へと移り住んだ。この詩「郷愁」は、1972年1月に、台北市内の住居で書かれたという。当時の中台関係により彼のような境遇の人びとが中国へ帰郷することは叶わなかった。余光中の心の中に、台湾海峡を越えた先にある中国大陸への強烈な「郷愁」があったことは想像に難くない。

今や台湾人のアイデンティティーや政治意識は大きく変貌し、彼の「郷愁」に素直に同情できる人は少数派であろう。それでもこの詩が多くの人びとに愛唱されたのは、この詩自身に大きな魅力が備わっているからであろう。その魅力の一部を忖度してみれば、ごくごく簡単な文体、ごくごく日常的な言葉で構成された、素直な比喩とロジックに誘われて、ついつい自分自身の心情を投影してしまう…ということではないだろうか。皆さんも朗読し、あるいは傾聴して、感じ取ってみてほしい。

2024 年度 ポルトガル語 【ソロ部門】

“Mãos dadas”

Carlos Drummond de Andrade

「手を取り合って」

カルロス・ドゥルモン・ジ・アンドラーヂ

Não serei o poeta de um mundo caduco.

私は廃れた世界の詩人にはならない

Também não cantarei o mundo futuro.

未来の世界を歌うこともない

Estou preso à vida e olho meus companheiros.

私は人生に縛られていて、仲間を見つめる

Estão taciturnos mas nutrem grandes esperanças.

彼らは寡黙だが、大いなる希望を抱いている

Entre eles, considero a enorme realidade.

彼らの中に、巨大な現実を想像する

O presente é tão grande, não nos afastemos.

現在はあまりに大きい、だから私たちは離れないようにしよう

Não nos afastemos muito, vamos de mãos dadas.

あまり離れないようにしよう、手を取り合って行こう

Sentimento do mundo (1940)

(訳文: 江口佳子)

(解説)

カルロス・ドゥルモン・ジ・アンドラーヂ(1902-1987)は、20 世紀のブラジルを代表する詩人です。詩集『世界の感情』(*Sentimento do mundo*)が発表された頃、ブラジルでは、ジエトゥリオ・ヴァルガス大統領による独裁体制が敷かれていました。課題詩の中で、自分は現実から疎外された詩人にはならないし、ロマンチックな逃避もしないと宣言しています。そして、人々が苦しい状況に置かれていても、希望を抱いていることを感じ取っています。現実の困難を乗り越えるための連帯を呼びかける力強い詩です。

[Mãos Dadas, de Carlos Drummond de Andrade, com Georgette Fadel - YouTube](#)

★ポルトガル語のペア発表について

- ① 黒字と紫字それぞれ担当を決める。
- ② 最後の詩句(緑字)は一緒に言う。
- ③ タイトルと作者は一人または二人で言う。

“Desafio do Trava-Línguas”
César Obeid

Começou nossa peleja
Na arte de improvisar
Eu proponho um convite
Pra ninguém se enrolar
Relembrando trava-línguas
Para a língua não travar.

Então vou te acompanhar
Pois não temo calafrio
Vou mandar versos complexos
Para esquentar o clima frio
Se um de nós travar a língua
O outro vence o desafio.

Então eu viro um navio
E começo a navegar
Sabe aquele sabiá
Que sabia assobiar ?
Viu um sapo lá no saco
Com seu papo a pular.

Você disse sem travar
Mas eu vou dizer agora
Alô, o tatu tá aí ?
Não, o tatu já foi embora
Ver um gato se esconder
Com o rabo bem pra fora.

「早口言葉の競い合い」
セザル・オベイジ

即興という芸術で
私たちの戦いが始まりました
誰も当惑しないように
私がお誘い申し上げます
舌がもつれないように
早口言葉を思い出します

それでは、あなたにお付き合いします
身震いなんか怖くありませんから
冷たい空気を暖かくするために
複雑な詩句を言いましょ
私たちのうちどちらかの舌がもつれたら
残りの一人がこの競い合いに勝ちます

それでは私は船になって
航海し始めます
ピーピー鳴くことのできる
あのサビアを知っていますか？
あの袋の中で喉袋を膨らませている
ヒキガエルを見たんですよ

あなたはつかえずに言えました
それでは今度は私が言います
もしもし、そちらにアルマジロはいますか？
いいえ、アルマジロはもう行ってしまいました
しっぽを丸見えにして
隠れる猫を見るために

É tão grande sua artimanha
Quanto é grande a cantoria.

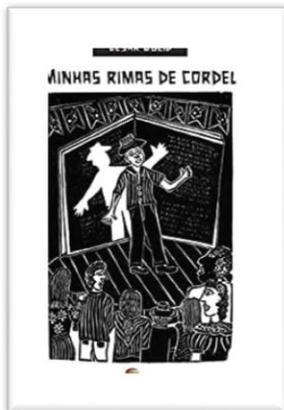
即興詩人の掛け合いが偉大なのと同じくらい
あなたの才能は偉大です

Em nós dois sobra façanha
Pra brincar com poesia.

詩で楽しむ
偉業が私たちにはあります

Nosso verso agora míngua
Pra findar o trava-língua
Adeus, até outro dia.

詩句が無くなりましたから
早口言葉を終わりにしましょう
さようなら、またいつか



In: César Obeid, *Minhas Rimas de Cordel* (2013)
(訳文:江口佳子)

(解説) セザル・オベイジ(1974～、サンパウロ)はコルデルの詩人です。コルデルは、民衆文学の一つのジャンルで、ブラジル北東部が起源です。“細紐”という意味で、露店で紐にぶら下げて売られていることが名称の由来です。詩人オベイジは、課題詩が収められている本の中で、「コルデルとは口承詩であり、口述され、話され、語られるために作られる。[...]ブラジルには、優れた即興詩人が全国にいる」と述べています。

課題詩にある斜体字がポルトガル語の早口言葉です。リズムカルに発声する言葉遊びに挑戦しましょう。サビアやアルマジロという南米大陸の鳥や動物を題材としている点も興味深いです

常葉大学多言語レシテーション大会
 歴年の課題文

韓国語

	Level 1	Level 2
1st, 2014	서시 (윤동주)	나는 배웠다
2nd, 2015	나를 키우는 말 (이해인)	내가 사랑하는 사람 (정호승)
3rd, 2016	첫눈 오는 날 만나자 (정호승)	봄이 오면 (김동환)
4th, 2017	그대가 곁에 있어도 나는 그대가 그림다 (류시화)	이 순간 (피천득)
5th, 2018	서시 (윤동주)	담쟁이 (도종환)
6th, 2019	저녁에 (김광섭)	꽃 (김춘수)
7th, 2020	새로운 길 (윤동주)	모든 순간이 꽃봉오리인 것을 (정현종)
8th, 2021	외롭다고 생각할 때일수록 (나태주)	들국화 · 1 (나태주)

	1. Solo	2. Pair
9th, 2022	너를 기다리는 동안 (황지우)	범 내려온다 (작자 미상)
10th, 2023	초혼 (김소월)	별 헤는 밤 (윤동주)

スペイン語

	Level 1	Level 2
1st, 2014	DIBUJA UNA LETRA (Ana Belén López)	LA GUITARRA (Federico García Lorca)
2nd, 2015	EL MONSTRUO (Gloria Fuertes)	PLATERO Y YO (Juan Ramón Jiménez)
3rd, 2016	CANCIÓN DE JINETE (Federico García Lorca)	GRACIAS A LA VIDA (Violeta Parra)
4th, 2017	CAMINANTE [Extracto de Proverbios y cantares (XXIX)] (Antonio Machado)	FÚTBOL (Antonio Delatoro)
5th, 2018	DIBUJA UNA LETRA (Ana Belén López)	LA GUITARRA (Federico García Lorca)
6th, 2019	MEMENTO (Federico García Lorca)	CREEMOS (Rafael Alberti)
7th, 2020	YO, EL PÁJARO Y LA CAMPANA (Misuzu KANEKO)	Mensaje del ex-presidente uruguayo José Mujica
8th, 2021	CAPAS DE NIEVE (Misuzu KANEKO)	GRACIAS A LA VIDA (Violeta PARRA)

	1. Solo	2. Pair
9th, 2022	CANCION TONTA (Federico García Lorca)	ROMANCE SONAMBULO (Federico García Lorca)
10th, 2023	DE COMO ERA DON QUIJOTE (Miguel de Cervantes)	LLANTO POR IGNACIO SANCHES MEJIAS LA COGIDA Y LA MUERTE (Federico Garcia Lorca)

中国語

	Level 1	Level 2
1st, 2014	枫桥夜泊 (张继)	送秘书晁监还日本国 (王维)
2nd, 2015	清明 (杜牧)	青玉案 元夕 (辛弃疾)
3rd, 2016	凉州词二首 其一 (王翰)	七步诗 (曹植)
4th, 2017	《故乡》结尾 (鲁迅)	送秘书晁监还日本国 (王维)
5th, 2018	凉州词二首 其一 (王翰)	七步诗 (曹植)
6th, 2019	《故乡》结尾 (鲁迅)	青玉案 元夕 (辛弃疾)
7th, 2020	枫桥夜泊 (张继)	乡愁 (余光中)
8th, 2021	《故乡》结尾 (鲁迅)	送秘书晁监还日本国 (王维)

	1. Solo	2. Pair
9th, 2022	凉州词二首 其一 (王翰)	终身大事--游戏的喜剧 (胡适)
10th, 2023	枫桥夜泊 (张继)	青玉案 元夕 (辛弃疾)

ポルトガル語

	Level 1	Level 2
1st, 2014	Poema Pequeno (Carlos Drummond de Andrade)	Rosa de Hiroshima (Vinícius de Moraes)
2nd, 2015	Poema tirado de uma notícia de jornal (Manuel Bandeira)	Meus oito anos (Casimiro de Abreu)
3rd, 2016	Canção do Exílio (Gonçalves Dias)	<i>Macunaima</i> (Mário de Andrade)
4th, 2017	Pequena canção da onda (Cecília Meireles)	<i>Orfeu da Conceição</i> (Vinícius de Moraes)
5th, 2018	O Gondoleiro do Amor (Castro Alves)	Natal na Barca (Lygia Fagundes Telles)
6th, 2019	No meio do caminho (Carlos Drummond de Andrade)	Via Láctea (Olavo Bilac)
7th, 2020	Canção para uma valsa lenta (Mário Quintana)	Motivo (Cecília Meireles)
8th, 2021	“ <i>Soneto da Fidelidade</i> ” (Vinícius de Moraes)	Cordel (Bráulio Bessa)

	1. Solo	2. Pair
9th, 2022	Canção do Exílio (Gonçalves Dias)	<i>Orfeu da Conceição</i> (Vinícius de Moraes)
10th, 2023	Dois e dois: quatro (Ferreira Gullar)	Adivinhas (César Obeid)